



本に親しむ子供に!

昨日図書室の前を通ると、図書室の西村先生が本の読み聞かせをしていました。その絵本は「としょかん町のバス」という題名でした。この絵本には、本を探すのに役立つ図書分類法について、0の広場から1~9丁目までを循環する「としょかん町」のバス旅を通して楽しく紹介してあります。この分類法とは「日本十進分類法(NDC)」と呼ばれ、図書の並べ方、検索方法の一つです。本に書かれた内容(テーマ、主題)によってグループ分けを行い、そのグループを順序よく棚に並べ、本を探しやすくするための方法です。絵本には、それぞれの数字を町にたとえ、そこにどんなものが含まれるのかを細かな絵で示してあります。多くの図書館で使われている日本十進分類法の10の数字に込められている意味がわかると、図書館の利便性がぐっとあがりますよ。



絵本の読み聞かせと本の紹介

さて、本校では、月曜日の朝を読書の日に指定しています。読書で養える力の一つに、「語彙力」が挙げられます。アメリカのある読書科学の研究者によると、読書することによって20語に1語の割合で、文脈を頼りに知らない言葉の意味を自然に習得できるというのです。

以前、学力向上に関する共同研究をしたことがあります。そこで、わかったことは、「①子供の学力を伸ばすために、知能を伸ばすことが優先される。②知能との関わりが深いのは、国語である。国語の伸びを待って、算数が伸びる。④最も効果を上げるのは、言語理解で、次に読解力」ということでした。そう考えると読書は楽しみながら自然と学力も伸ばしてくれるのです。そう考えると、帯西レッド「自分を育てる心」がぐんぐん伸びてきそうですね。

他にも、読書で養える力は「想像力」も挙げられます。筑波大学の黒古一夫教授は、若者の「共同、協同性」の喪失が近年顕著であることを憂慮し、その理由は「ことば」のもつ二面性(伝達機能と表現機能)のうち表現機能がないがしろにされ、想像力が低下した結果だと主張しています。読書をすることによって、本の世界で起こることを追体験ができれば、その状況や感情を想像することができるようになります。最近、情報はICT機器からインターネットを通して、簡単に入手できるようになりましたが、直接的な体験を補う想像力を養ってくれるのは、やはり本=ことばということになりそうです。人間は人間(じんかん)、つまり人と人との間でこそ、生きていける存在です。他人を思う想像力があってこそ共生が成り立ちます。ここでは、帯西グリーン「ともに生きる心」も育まれるようです。他にも新たな発見や心揺るがされるような感動も味わうことができ、帯西ブルー「命を感じる心」も醸成されそうです。そう考えるといくつも心が育まれ、「帯西パープル」が登場してきますね。

最後に、図書室の西村先生に図書室を通して、どんな子供たちにしたいかを尋ねると、「『いつでも手に取れる所に本を!!』モットーに、いろいろな種類の本に出合って欲しいです。本の世界を楽しみ、学び、心の栄養として、自分のお気に入りの一冊を見つけて欲しいです。」という思いを知ることができました。